

笠間市社会福祉協議会

## 北川根支部だより

第151号



発行日 令和5年10月19日  
発行 笠間市社協北川根支部  
編集 北川根支部広報委員会  
印刷 (有)シーエス

## 挨拶(あいさつ)の大切さ

副支部長 小林 吉彦

を議本  
を微力  
校活動  
がや通  
ちこの  
す。あ  
方。引  
住。役  
見。割  
な。と  
日。お  
(目北  
指川  
す根  
べき小  
教学校  
育の  
理の  
念グ  
にラ  
おン  
いて  
もン



夏休み明けの9月1日、元気に登校する生徒達

あいにのまく開 関き気「うをとるいいか材はとこはめがしや向を学あ  
やい近心「く「係る持「おこ交い方でさらから常いうです。ああいでいさつ  
なさづを「と「挨がのちはしこもすつこなる識うです。ああいでいさつ  
気つく開挨い「く「よす。一「とといでるつき子てかある葉が「挨もろくにでき  
分に「き拶う「「なる。三「とんやす方目は供いどうある「挨もろくにでき  
にたと「す意拶「「「と「どな。もは「をこもかうよう「挨もろくにでき  
なるにう相る味「「「と「と「ない分互持あにさつけ自まる「挨もろくにでき  
の返こをいる相は「「「と「は「ない分互持あにさつけ自まる「挨もろくにでき  
は事にめこそ手「う「め「「と「は「ない分互持あにさつけ自まる「挨もろくにでき  
相なな「とうの自「こと人「こと人「こと人「こと人「こと人「こと人「こと人  
手い相はで心分「近心「近心「近心「近心「近心「近心「近心「近心  
にとま手「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの  
自きす。心分「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの  
分に。心分「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの「すにの

当面の行事  
(予定)

- ① 合同茶話会  
11月14日(火)  
11月15日(水)
- ② パン作り講習会  
11月23日(木)
- ③ 支部研修  
2024年1月(予定)

る応ら だか近であが  
よじ学多とらづ、い認  
うた童く思こい相さめ  
育気達のいそて手つら  
ん持が地ま、いのこれ  
でちい域す互くいはな  
ほのつの。い積を、い  
し良で人、の極開自と  
いいもた、関的か分感  
であ、ち、係なせのじ  
す。いどの、が行、心  
。さこふ、よ為相をから  
がもあ、くで手開  
で場い、なすのくす  
きにか、ののだにと



社協北川根支部も月2回、あいさつ運動に参加



事根 4 まらり逆夫く  
を小月私すも、にでな  
さ学かは。活不心すり  
せ校ら、動慣配か  
てで、今 しれさ？  
いお北年 てなれ「ナ  
た仕川の いがたと又

盛り付け。出来たてを受け取り、一人暮らしのお宅へ配達します。

5月から9月までの「個別訪問」、地図やスマホのマップを使つての訪問。留守宅には、名刺にメモを書きポストイング。今年には、熱中症警戒アラートが連日続く猛暑。初めての顔別訪問。チャイムを鳴らし、お話を拝見するとホッと一安心。話が長

～新人 民生委員児童委員  
として～ 野口 節子

野口 節子

[illegible]

北川根小学区民生委員・児童委員 [担当区域]

|        |    |                          |
|--------|----|--------------------------|
| 横木     | 守  | 旭丘団地、住吉団地、みどり野団地         |
| 布施谷智恵美 |    | 旭団地、西協、長野、RG風の杜、グリーンウッド  |
| 光又     | 宏子 | 随団地、西原、西原住宅班、コンフォートタウン西原 |
| 打越     | 安洋 | 石沢、長兎路全区                 |
| 野口     | 節子 | 住吉本宿、白百合                 |
| 古山     | 均  | 住吉新宿、湯崎、田向               |
| 枝川     | 良雄 | 随分附本郷、笠松、東原              |
| 箱田     | 素子 | 柏井、柏井団地、旭丘、仁古田全区、南丘団地    |

な成長は、私の生き甲斐、活動の原動力となつています。児童への、きめ細かな先生や教職員の皆さんの、きめ細かなご指導、頭が下がります。学校や地域、児童、高齢者の皆さん、沢山の方々の暖かいお世話になり、行政とのつなぎ役として活動して行きたいと思えます。よろしくお願ひいたします。



だいています(写真)。民児協の「見守り」も出来ると思っていたが、逆に、日々、児童の元気な挨拶や笑顔に接し、私の方が「見守られ」ているような気がします。

児童の元気、健やか



のて構部部従併す参と施対り  
をい成のと来せ加です抗は  
合た行2大子て、を住るで  
同もつ部人供、促民こ実組

進み、住民も、子供が少なく、老齡化が  
はとの意見も出て、加わりました。  
仁古田祇園祭は、山倉神社のお祭  
りで、以前は、神輿の巡行と盆踊り  
のセツトで行われ、いまは、神輿は、  
神域、全域を巡回し、途中スイカが  
しり、入、し、入、し、入、し、入、し、  
り、かし、入、し、入、し、入、し、入、  
行は、交通事情が悪化、猛暑で、巡  
神輿が、教回、盆踊り、この良しとす  
神輿が、教回、盆踊り、この良しとす

7月22日に、仁古田地区の祇園祭を実施しました。コロナ禍で延期を余儀なくされ、4年ぶりの実施です。当番制の実行委員会（23名）が運営に当たります。しかし、高齢化が進み、実施することに負担を感じるとの意見が出ました。

仁古田祇園祭

祇園祭実行委員長 矢萩 雅一



15分で、踊っている方々も、太鼓の方々も疲れが見え始め、休憩を入れる結果となりました。合同実施にたことで、多くの参加となり、和やかに楽しく踊れたと思います。夜店は、子供会側の2店舗、実行委員会側の2店舗を準備しました。社会福祉協議会様より、綿菓子とかき氷の機械を無償で借用できたので、助かりました。初めて綿菓子作りに挑戦しましたが、なかなか難しく、コツがいたることを知りました。手に絡まつてしまったり、形が整わなかったり苦勞しましたが、二つ三つ作るうちにコツが分かってきます。無料での提供だったこともあり、夜店はいづれも大変好評でした。今年の大変好評は、コロナ禍からの開放感も手伝い、期待以上の参加を開き、ほぼばい成功裏に終えること、面、労働力の面です。費用面、設備で、支援を頂きながらの開催でしたので、厚くお礼を申し上げます。

た。慮輕者太參こ短の来間踊実  
し減の鼓加と縮30のもり施  
まを疲担者です分半、のし  
し考労当と、るに分従時、



わが地域

22

## 「随分附」地区

難読地名で知られる「随分附」  
 （なむさんづけ）。岩間街道（県道  
 30号・水戸岩間線）を挟んで、北西  
 から南東に流れる1級河川「枝折川」  
 （しおりがわ）の流域に立地してい  
 ます。  
 地域には、古墳時代とされる遺跡  
 や域内唯一の製鉄跡が確認されてい  
 ます。  
 地名の由来について、以前何度か  
 問い合わせなどを受け調べた経緯が  
 あります。  
 「新編常陸国誌」（宮崎報恩会  
 常陸書房）などの研究資料がありま  
 す。が、現在のところ確かな答えが見  
 つからない状況にあります。  
 元々の地名の音から充てた文字と  
 して、またアイヌ語説、仏教語説な



「随分附」という地名が何時から使われたかも定かではありませんが、古代豪族に繋がる「土師」の地名が近くに残ることからその関連か？。「土師器」が作られたのは、古墳時代（4世紀末）から平安時代（12世紀末）とされています。古代、この地域で古墳や古墳装飾に関わる一族が活躍したことも考えられます。小原にかけた国道50号線沿いに現存しています。

地名に結びつく地理的要因、社会的要素などの資料・情報が不足しており、まだ定説となる答えが見つかりません。

随分附の地名が出てくる資料は、秋田氏が穴戸の地に転封された慶長7年（1602年）の「穴戸藩領村高」（太閤検地の成果？）に見える。

(枝川良雄)



か者：の目来う意  
？が「つ下る）と  
、ととの範Ⅱし  
随あめ者囲身て  
分りをにで分「  
附ま果自十相隨  
す。す分のにⅡ  
人どよ身「Ⅱ分  
にのう分「身に  
申よににⅡ分隨  
しう申隨なやう文  
つなしっふ自（字  
け身付てさ分しから  
分け、つのたら9月  
のるそⅡ出がの）。

成第（てか何ら分どど  
261支いはをれ附うあり  
年2部ま解意た「として  
9月4号だせ味のの充  
）。平りんさるすか、「すが



枝川支部長を含め29名が参加した女性部研修

女性部研修

7月4日(火)

星野富弘美術館(群馬県)

富弘美術館は、初めての方、数年ぶりの方と、改めて全館見学。24歳の時の不慮の事故（体育指導中）による頸椎損傷、首から下の麻痺となる

声換しと柴に片の術発より  
 とあた、田拡道扱コ館へ。当  
 、り。29副大1いロ一少日は  
 と、車名支。5がナ路、早晴  
 ぎ話内参部枝05のれ  
 れるしは加長川km類感  
 事、の参支のと染  
 な笑報修の長、な症  
 くい交でも、内、法  
 上

当日は晴れ！予定通り少し早く社協を出発、一路、群馬富弘美

編集後記

編 集 後 記

移り、コロナの5類  
生活で、マスク始  
め、お互い、顔の表情が分かるよう  
になつてきました。3年前には戻れ  
ませんが、新しい発想、新しい活動  
で、明るく、安心できる地域・社会  
を作つていきましよう。

(藤森)

るが、お母さんの献身的な看護と本人の努力で、現在に至っている。

文字と絵がやさしくかたりかけてくれる作品には、心うたれました。

昨年喜寿（77歳）を迎えられたとの事、改めて文才、絵才と日々の努力の積み重ねが記録、スライド等で感じ取ることが出来ました。

女性部の皆さんも、自然豊かな環境、草木湖もながめながらの帰路となりました。

（水庭 ちさい）

(水庭 ちさい)



近くの草木湖もながめ、大満足の日でした